

自然共生研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問など	・限られたリソースの中で、生物多様性の保全、利用、主流化に関する広範な課題がバランスよく実施されている。 ・農業農村生態系や都市空間における課題解決に向け、他省庁（農水省や国交省）との連携や調整も積極的に進められている点は高く評価。 ・個々の研究では学術的レベルの非常に高い成果を上げているが、例えば「精緻化」、「高度化」といった成果がプログラム全体の目標達成にどの程度貢献しているのか示されていると良い。 ・エコチル調査との連携による生物多様性と健康の関係解析は、本プログラムと関連領域が今後強化すべき課題として大いに期待している。	高い評価を下さり感謝する。精緻化あるいは高度化に関しては、具体的な現場への応用を行うために必要だと考えている。例えば、鳥獣データベース構築による鳥獣管理の具体化、外来種防除の実装、生物プロセスを考慮した将来予測（予測自体のブレークスルー）、自然共生サイトの評価などが挙げられる。最終年度に向けて、精緻化、高度化を行ったことにより達成できたことを整理したい。
	特に、自治体・省庁の膨大な鳥獣データを統一的にデータベース化できたことは、鳥獣管理や捕獲指針の策定に大きな貢献であり、高く評価する。	鳥獣管理への展開をさらに推進していきたい。
今後への期待など	生物多様性の保全やその利活用、鳥獣個体数推定高度化とデータベース化や、感染症対策など、生物と人間が共生していくために大変重要な課題に取り組んでいる。市民参加型調査は、市民が自然と共生する仕組みを作る取り組みとしても重要である。都市におけるミツバチと、各種農薬との関係については、特に国民にとって関心が高い生物と環境との問題であると考えられ、今後の農業や関係産業に影響する調査であり、注目される。 生物と人間との共生は気候変動や都市化、少子化などの人間生活の変化に伴い、課題も変化することが予想されるため、そのような社会的な変化と合わせた研究が必要と考えられる。今後もより社会実装に繋がる成果が得られると期待。	高い評価を下さりありがたい。いただいたご助言を考慮して進めていく。
	昨今、野生動物との関係や自然資本の話は一般的にも関心が高まっているので、さらに今後の成果が期待される。	高い評価を下さりありがたい。鳥獣管理への展開をさらに推進していく。
	OECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）認定最優先候補地については、一般を含めて公開されれば、認定に向けたインセンティブになりうると思う。	いただいたご助言を考慮して進めていきたい。

自然共生研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・質問など	自然と共生のための大変多くの課題に積極的に取り組んでおり、多くの成果が得られている。それらは、近年の社会の変化や気候の変化と連動して起きているものも多く、特に環境に関する連携は高く評価できる。生物多様性や、鳥獣個体の把握、生物との共生のゾーニングに関する貴重な成果が得られている。一方で、社会の変化や産業と密接に関係するため、新たに生じている課題について、どのように取り組む体制を作るか課題となる。	高い評価を下さりありがたい。新たに生じている課題に関しては、生物多様性分野の基礎基盤とも連携し、先端的な研究とともに進めていく。また、社会の変化については他プログラムとも連携を進めていく。
今後への期待など	ネイチャーポジティブ（自然再興）など現在注目されている分野において、大変重要な学問的研究を進められている。ミツバチなど緊急な政策が必要なものにおいて外部への連携が急務なので、ぜひ引き続き発信しながら進めてほしい。	高い評価を下さりありがたい。いただいたご助言を考慮して進めていく。
	生物多様性の主流化および社会変革を促すという大変重要かつチャレンジングな目標が設定されている。5期の取りまとめに向け、行動変容を促進するための取り組みが着実に進められると期待する。	高い評価を下さりありがたい。いただいたご助言を考慮して進めていく。
	人間社会への影響に関して、気候変動も含めた要因を統合的に明らかにすることが期待される。	気候変動適応プログラムとも連携し、いただいたご助言を考慮して進めていく。
	Nature ファイナンスも今後研究に入れ、国際的な市場形成のために必要な自然の測定方法などを検討してほしい。	生物多様性の評価に関して、基礎基盤とも連携して推進していく。
	生態系を活用した社会問題解決（Nature-based Solutions）の取り組みは、環境全体にわたるテーマであり、国立環境研究所の主たるテーマとなるのだろう。	Nature-based Solutions は生態系機能・サービスの評価とともに、社会受容も考慮して進めたいと考えている。